

医療用無影灯開発へ

サムテック・イノベーションズ 岡山大などと共同

産業機械メーカーのサムテック・イノベーションズ（津山市平福）は、岡山大・津山高専などと共同で、手術室で使われる医療用照明器具・无影灯の開発を始めた。赤、青、緑、白のLED（発光ダイオード）を組み合わせ、光の色を自在に調整できるようにし、手術部位を見えやすくする。中国経済産業局の支援を受けて事業化を目指す。



サムテック・イノベーションズが開発する无影灯の製品イメージ

4色LED組み合わせ 色調自在、患部見やすく

サムテック・イノベーションズはベルトに載せた肉や野菜といった食材をLEDで照らし、目視で異物を取り除く食品検査用コンベヤーを手掛けている。当初は白色LEDを使っていたが、色を変えられるタイプを投入したところ、食材と同系色で照らすと他の色が浮き立ち、異物を見つけやすくなることが分かった。

无影灯は手術者の手元に影ができないよう、複数の光源から強い光を当てる照明器具。現在は電球や白色LEDなど単色が主流だが、患部の色に合わせて照明の色を調節できれば、より見やすくなる。サムテック・イノベーションズは、これまで開発に乗り出した。

4色のLED（計200〜300個程度）をまんべんなく配置し、それぞれの色の強さをつまみで調整する仕組み。赤、青、緑は光の三原色で、合成することであらゆる色を出せる。3月に特許申請済みで、来春をめどに試作品を作る。

開拓などを支援する。円（14年7月期）。従業員8人。岡山県内の信用金庫などが主催する本年度の「しんきんしたい」と話している。同社は2009年設立。資本金900万円。売上高1億700万円。（長田憲司）

中国経済産業局の本年度の「新連携計画」に採択され、5年間で3千万円の補助を受ける予定。電子部品製造のおおやサイエンス（鳥取市）が高輝度LEDを提供し、岡山大が光の色と見やすさの関係を研究。津山高専はLEDを動かして照らす範囲を変ええる機構を開発する。

他に岡山県産業振興財団、県工業技術センター、つやま新産業創出機構も参画し、販路